

第2回八王子市歴史遺産活用検討会
議事録

日時 平成30年11月26日(月)午後6:30～8:30
場所 八王子市学園都市センター

(1)「八王子市歴史文化基本構想について」について（資料1）

- ・ 「1. 歴史文化基本構想の基礎となる考え方」について、歴史文化基本構想で活用を図ることが目的とすると、“おとなしい”という印象を受けた。例えば、「(4)“文化財”から「地域らしさ」「八王子らしさ」を再発見、再認識し、活用を図ることで地域コミュニティの活性化、市民のアイデンティティの再確認につなげる」について、アイデンティティはそのとおりと思うが、地域経済における外部的な文化資源になるという言葉を入れたほうが良いのではないか。地域活性化や観光が目的になっているので、クリエイティブシティのような、事業者にも歴史文化が重要になるというメッセージをもったほうが良い。
- ・ 「2. 文化財の保存・活用の考え方」における八王子の古代遺跡について、「土器・土偶」という括りは、縄文時代から平安時代まで含んでしまうが、時代の特徴は分かれている。縄文は自然との共生を考えていかなければならない。原始時代として、地形や自然と絡めたほうが良いのではないか。遺跡だけではなく、地形や植生までは難しいかもしれないが、どういった植物が生えていたであろうとか、どういうものを食べていたかなどあったほうが、一般にはわかりやすいのではないか。「土器・土偶」とすると縄文弥生古墳までは区切って良いと思うが、律令制が入ってくる奈良時代になると、人をあえて動かすようなところが出てくる。遺跡文化が顕著に現れるのは、縄文弥生古墳くらいまでと言われているので、奈良平安もしくは中世の古いところとで分けるべきではないか。遺跡のものも同じように考えたほうが良いと思う。原始時代は、古くなると立地と植物・気候が大きくかわるので、それと結びつけないと説明が難しい。
- ・ 現在、自身で文化財マップをつくっていて、棚田遺跡に行ったが、モニュメントや碑が立っているだけで、観るところがない。土器を展示しているのは郷土資料館で、いろいろな時代のものであるというのがストーリーになるのではないか。現場での説明がなく分かりにくい。
→ 今後、説明を充実させるなど大事な視点と思っている。(市)
- ・ 中世を武蔵武士からとすると横山党まで入る。船木田の開発など、古代末期の後ろのほうにつけたほうが良い。室町だと武蔵武士ではなく、中世を武蔵武士とまとめるのは乱暴で、誤解を生むようなタイトルになっている。また、城郭都市というのは言い過ぎだと思うので、考えたほうが良い。古代末期には、まだ城郭はなく、城郭は15世紀にならないと出てこない。中世の古いほうを古代に、あとは近世の初期にするなど

分けたほうが良い。

- ・ 「１．歴史文化基本構想の基礎となる考え方」の（４）において、『文化財』から『地域らしさ』や『八王子らしさ』を再発見、再認識』とあるが、それを出すための考え方を前段に入れたほうが良いのではないか。都心からみたときに、八王子らしさがみえるというようなものを前段のなかに入れる。例えば、指定未指定の文化財を歴史文化＝市民遺産という捉え方で枠を広げて、八王子らしさを定義する。現状では具体的に結び付けにくいのではないか。江戸時代でも、多摩川を境にして東を江戸としている。つまり、多摩川を渡ると田舎。江戸の影響を受けながらにして八王子らしさがある、それを確認できると良い。そういう視点から八王子をみたほうが良い。
→ 歴史文化と置き換えたほうが良いかもしれない。（市）
- ・ 登録文化財としていない、指定にまではいかない手前をつくっているものが多い。そういったところも含めて、市民文化として概念を広げたほうがいい。八王子の特性がみえてきたのは中世になってからで、近世になって宿として制定されて以降となる。それ以前は出てこない。そういった歴史的な流れからみても八王子らしさというのが明確に読み取れない。
- ・ 「２．文化財の保存・活用の考え方」の下に【関連文化財群として整理するもの】とあるので、活用の考え方としてあるわけではないとみえる。八王子の歴史文化はこうだから、関連文化財として保存していくという言葉がないとわからない。外向けにもう少し整理したほうが良いと思う。
→ 次回、歴史文化基本構想の目次を提示して、そのなかで整理していきたい。関連文化財の整理前には歴史資源のリストアップという作業があり、そのなかから特徴を導き出し、その作業を経て８つを示している。5000件ほどの抽出からまとめているという状況にあるので、それをまとめたうえで出していきたい。（市）
- ・ 「２．文化財の保存・活用の考え方」の「◇武蔵武士によってつくられた八王子 ～城郭都市から商業都市へ～」について、日ごろから観光案内をしている立場からすると、これは何のことを言っているのか難しい書き方と思うので、中学生などにも伝わる書き方をすると良い。
- ・ 「２．文化財の保存・活用の考え方」について、近代に近いところで「産業」や「戦争」も含まれるのか。
→ “関連文化財群”の８つの考え方で、時代を明確に捉える場合と、捉えないで近代まで意識してつくる場合もあると思っている。織物の町では、織物が変化して今のものづくりのまちになっているので、織物産業がどのように変化していったのかということと近代化が描けると考えている。ここでは歴史的なところを説明するだけでなく、どのように未来につながっているのか説明したいと思っている。また、戦争についてはデリケートな部分もあるので悩ましいテーマではあるが、重要なテーマであると思っている。（市）
- ・ 高尾山は、関連文化財群としてまとめるということであるが、『おやま』の魅力』とする

と、高尾山のことだけに終始するのかと捉える。高尾山は、多摩御陵から甲州街道まで広い資源を括って表現するべきではないか。

→ 高尾山については後で説明するが、薬王院や自然だけではない周辺資源を含めてまとめていきたい。(市)

- ・ 「◇八王子宿と千人同心 ～人と文化が行き交う“八王子”の原型がここに～」とあるが、千人同心を八王子の原型と発して良いものなのか。様々な解釈があるのではないか。

→ 「八王子の原型」という表現は「八王子宿」の方にかかっているが、並びが誤解を受けるかもしれないので改善する。千人同心だけでは八王子の原型とはいえないと思う。(市)

- ・ 「人と文化が行き交う“八王子”というのは、どこを示すのか分かりにくい。あとは、古代のなかで、八王子を象徴するような出土品があるのか。全国的に名前が知られたようなものがあるのか、古代遺跡としてはないのではないか。

→ 「人と文化」のところは表現が重複しているので修正が必要。交通の要所としてどのようにまとめるかは今後検討が必要。交通の要所は縄文の黒曜石から始まって現代の圏央道の話までつなげて良いのではないかと考えている。ただ、道以外にも地勢的な特徴も含めて描けると良い。(市)

- ・ “関連文化財群”として言葉が8つあるが、言葉だけでなく、絵を加えるイメージか。それぞれに対してビジュアルがあると良い。

→ 詳しく説明する“関連文化財群”には掲載していく。ある程度ボリュームがある内容となる。8つは、八王子を大きく特徴として捉えたときにどのようなものがテーマとなるかという観点でまとめている。(市)

- ・ 今は、歴史文化基本構想の議論をしているという認識でよい。最終的なイメージがあいまいだったので、前提を整理して話し合いたい。

大久保長安など、個人名称を盛り込んでいても良いのではないか。

→ 説明に不可欠な人物は入れていく方針でいる。(市)

- ・ 人物は通常ではコンテンツであるので、歴史文化基本構想を集約するうえでエッセンスとして取り上げ、特徴的なものを出す。ただ、これはそれぞれの考え方で、あまり特徴的なものに集約すると落ちこぼれるところがあるので、ある程度は網羅的にならざるをえないのではないか。

- ・ 関連文化財群で、里山の景観と文化とある。さらっとした表現だが、このなかには農業や第1次産業のような要素も入ってくるのではないか。高月は水田面積が東京で最も広いこともあるし、農業・第1次産業を1つの項目にしても良いのではないか。

→ 八王子は人に近いところに自然があることが特徴的で、第1次産業や、高月の原風景は大事なところになると思っている。(市)

- ・ 「里山の自然」はどこでも言えるが、八王子の自然を掘り下げるのは難しいのではないか。丘陵地と大地があって、低地もあって、地史をベースにした里山の風景を出していくのではないかと思う。

→ いわゆる歴史の教科書ではなく、市民が八王子の歴史に興味をもつきっかけをつくりたい。なるべく市民の親しみが持てるものをテーマとして考えたい。歴史を語るのであれば編さんした市史があるので、歴史文化基本構想は歴史の教科書にはしないと考えている。(市)

- ・ 平易に伝えるということは親しむが必要と思うが、専門だからこそ知りえた驚き、実はこうだったと伝えることが、活用のときに伝える方法としてあるのではないか。いま、座標、分野、指標という視点で議論をしているので、それは必要である。歴史文化と宗教、自然、なにかと絡めながら位置付けていくと論理的に整理できるのではないか。

→ 史実に加えて、人々の生活や文化を関連付けて示していきたいと思っている。(市)

- ・ 八王子の街角に銅像や彫刻が建っている。そういったものが、何のことを言っているのかわからないので、まとめてみたらどうか（何のためにあるのか、何を意味しているのか、説明してみたらどうか）と思っている。

→ 以前、「彫刻のまちづくり」を施策として展開し、街中に彫刻があるが、うまく活用できていないのが現状。(市)

- ・ 現代アートを歴史文化ととらえるかどうかというところもある。ブロンズ像もあり、彫刻のあるまちづくりでつくったものが多いが、歴史的な観点から拾えるかどうか。単に一過性で終わらせるのかどうか。
- ・ 洗い出して整理してみてもどうか。
- ・ 文化財の保存活用の東西南北で人と文化がとあるが、道を想定してしまったほうが良いのではないか。圏央道だけではなく鉄道も含めて道などをまとめたほうが良いのではないか。
- ・ 北では嵐山町に八王子道が残っている。ほかにもある。そういう意味では、八王子を外から見ると八王子という地名が認識できる。八王子の外では八王子道が随所で使われている。

→ テーマとして示しているので、次回に深めていきたい。(市)

- ・ 横川楳子のような教育にみられるような、幼年学校、近代教育における八王子の役割があっても良いのではないか。八王子工業の染色など、近代の教育もある。近代が薄いような印象があるので追加しても良いのではないか。

→ 小学校では萩原彦七、中 雨紅らが教科書で取り上げられているので不可欠と思っている。(市)

- ・ 近代、近現代は歴史とはとらえられないので忘れがち。八王子駅、市街地が戦後、復活したのは小林吉之助のおかげだが、時代があまり近いものだから歴史的人物として取り上げられていない。近現代の人物を入れてみると良い。

また、八王子七福神は昭和 50 年代に始まったが、過去は三十三観音札所や八王子八景などの文化的なものもあるので、考慮してみても良いかもしれない。

- ・ 「1. 歴史文化基本構想の基礎となる考え方」の後世に伝える・八王子らしさを伝え

るなかで、群として捉えにくいものに「伝承」などがあり、こういったものに「らしさ」が含まれてくるのではないか。日野には言い伝えがあり、地元の人は先代から引き継いで次につなげていく。学校でもやっている。風俗とか習慣とか、そういったものも含めていくのが良い。

→ 国も重要視しているので、まとめていけるか検討する。食文化も含めていくことを考えている。(市)

- ・ 文化財の保存となると、残っているものであり、織物は産業化されている。現在も生きているものとしてあるときに、どのように説明されるかが重要で「織物の町」という言葉でいいのか。武蔵で始まって八王子でまとめていっているが、現代につながっているのも、同じベースにならないのではないかな。

→ 8つのテーマにおいて、古代以外は、何か現代につながっていることをみせていきたい。そのなかで織物は顕著に言えると思っている。歴史を知って未来のまちづくりをどうしていくのかと訴えていきたいので、歴史文化を活かしたまちづくりとして未来を展望できるかを、表現していきたいと思う。これから歴史文化資源になっていくものも大事だと思っているので、古いものにこだわらなくとも良いと思っている。(市)

- ・ 八王子らしさや特徴が出ているが、「らしさ」を特定するためには個々の事象を並べるだけでは出てこず、解釈軸が出てこないと分からない。解釈軸をもっと出さないと、今あるものを出していくだけでは活用につながらないのではないかな。ここに出ていないものもあり、それも掬い取れない。特徴と書くとわからないので、八王子の歴史文化として打ち出す価値なのだろうと思う。取り上げる理由として解釈や教訓、未来に残さなければならないから、という解釈軸の議論を出していくといろいろなストーリーを出していけるのではないかな。適応的な文化財保護というか、石見銀山のように、各時代の要請に適応してきたという結果なので、なぜ守らなければならないのかというところを考えたほうが良い。

→ 各地区でワークショップを開催している。地域の大切にしているものや残したいものについて話し合い、残すためにはどうしたらいいのか検討しているところ。また、11月から市政モニターでアンケートをしているところ。(市)

(2) 日本遺産ストーリーの方向性案について(資料2)

- ・ 方向性Cで使用している絵の向きが逆ではないか。右手に高尾山があり、左手が新宿を向いている。
- ・ これは京王電鉄の原図を使用しているのだと思う。
 - 掲載している文言は、現状ではまだ事実検証できていないので、イメージでとらえていただきたい。「C」は京王電鉄の絵図を使っている。(市)
- ・ 高尾山の絵図はたくさんあるので、どれを使うのが厳選したほうが良い。また、甲州道中は高尾山と密接な関係があるので強調したほうが良い。高尾町、高尾駅は入れたほうが良い。明治の森は昭和40年代。江戸時代は開帳を2回ほどやっている。

- 日本遺産では他地域との差別化に注意が必要で、戦略的に考えていかなければならない。神奈川の大山は修験道・宗教的な意味合いで認定されており、高尾山と似ている要素があるが、「近代化」というところで差別化が図られるのではないかと考えている。(市)
- ・ 必須条件は国指定の文化財だが、八王子城跡以外にどのようなものがあるのか。

→ 国指定の文化財が 5 つあり、八王子城跡以外では滝山城、小仏関所、古代遺跡 2 つ。高尾山とは八王子城跡と組み合わせるのが良いと思っている。(市)
 - ・ 高尾山からすると、小仏関所が地域的な一帯になると思うがどうなのか。

→ 観光的要素として使えるかどうかというところからすると、八王子城跡が訴求しやすいと思う。ひとつだけではなくいくつでもいいので複合的に考えていきたい。(市)
 - ・ 「日本の伝統文化を」と書いてあるが、日本のということが必要か。

→ 日本遺産はインバウンド的な要素が強く、「八王子」ではなく「日本」を表現するものが求められている。(市)
 - ・ 歴史文化基本構想に八王子だけではなく「日本」と入っていたほうがいいのか。国に出す構想であり、日本の伝統文化を理解してもらうために日本遺産に指定するので、歴史文化基本構想に「日本の歴史文化を理解するための一助とする」と書いてあるほうが良いのではないか。

→ 国の制度では日本遺産 100 件の認定を目指しており、各地で日本遺産を認定し、集めると「日本」という考え方であり、そのなかのパーツのひとつという位置づけなので基本構想では特段日本を強調する必要はないと思っている。(市)
 - ・ 方向性案の A～D のどれかに絞るのか。見た感じでは C 前提の D で、D があるから世界に訴えられる。なぜ高尾が大事なのかは A と B。レジャーのなかでは天狗のデザインが変わって語られるので、すべてがかかわってくる。C がメインとして D を入れて、前提条件として A・B を高尾山の価値として入れたほうが良い。

→ 申請書の文字数が少なく、本体は A4 用紙 2 枚分しかなく、写真も入れるのでかなり少ない。内容の取捨選択が必要になるかと思う。(市)
 - ・ 認定要件のなかで重視しているポイントは何か。

→ 現状でないものは通らない。行ってみたり聞いたり確認できるものが前提条件となる。消えたものでは対象にならない。(市)
 - ・ いままでの事例をみると、日本のなかでの特異な文化がみられるものが認定されているように思う。それに匹敵するようなものを出していかないと難しいのではないか。

→ 固有的なもの、とある程度日本の普遍的な要素と、両方ないとならない。(市)
 - ・ ストーリーの文章は、きれいな日本語で訴える、読みやすくわかりやすい日本語で訴えるのが条件と聞いた。

→ 歴史文化に詳しくない審査員もいるため、史実性のみではなく面白さも含めて伝えていく必要がある。(市)
 - ・ 関連文化財群は日本遺産につながっていくため、検討が難しい。歴史文化基本構想だ

けなら群はいらないとも思うが、日本遺産認定に向けてつくらなければならない、必須条件になっていて、歴史文化のストーリーに何があるかを書かなければならない。地域計画もつくらなければならず、どうやって保存し活用するのか書かなければならない。八王子市には八王子らしいストーリーがあるので練っていく必要がある。検討の方法として、この流れの逆から議論しているので今日の検討会は難しかったと思うが、日本遺産に向けてのストーリーをどこにおいて、何をかき集めれば八王子を活性化できるのかを考えなければならぬと思っている。

- ・ 高尾山に 300 万人来ており、高尾山の日本遺産認定はこれを大幅に増やしたい意図ではないが、ブームには陰りがある。いつまでもミシュランに頼るわけではなく、新しい価値をつけていく。ほかの課題が出てきて、分散化して、広域的に考えることもあるかと思うし、魅力を保っていききたい。

以上